

殿

仕 様 書

仕様書番号 FJS-F-2-技-01-147

品 名 トリプルシールド同軸ケーブル
TS-S-5C-FB



富士電線工業株式会社

〒582-0001 大阪府柏原市本郷5丁目5番48号

TEL 販売部 072-(971)-8831(代)

TEL 技術部 072-(973)-0711(代)

仕 様 書

トリプルシールド同軸ケーブル
T S - S - 5 C - F B

1. 適用範囲

この仕様書は、富士電線工業株式会社が製造するトリプルシールド同軸ケーブルの次のサイズのものについて規定する。

T S - S - 5 C - F B

2. 構造

付表1による。

3. 特性

付表2による。

4. 試験方法

4.1 外観

外観は、J I S C 3 0 0 5 (ゴム・プラスチック絶縁電線試験方法) の4.1による。

4.2 構造

構造は、J I S C 3 0 0 5の4.3による。

4.3 内部導体抵抗

内部導体抵抗は、J I S C 3 0 0 5の4.4による。

4.4 耐電圧

耐電圧は、内部導体と外部導体間について行い、J I S C 3 0 0 5の4.6 b) による。

4.5 絶縁抵抗

絶縁抵抗は、内部導体と外部導体間について測定するものとし、
J I S C 3 0 0 5の4.7.1による。

4.6 特性インピーダンス

特性インピーダンスは、周波数10MHzで、同調法その他適当な方法によって行う。

4.7 減衰量

減衰量は、直接法その他適当な方法によって行う。

4.8 シースの引張り

シースの引張りは、J I S C 3 0 0 5の4.16による。

4.9 シースの加熱

シースの加熱は、J I S C 3 0 0 5の4.17による。

加熱温度及び加熱時間は、J I S C 3 0 0 5の4.17.2の表5のBによる。

4.10 シースの耐寒

シースの耐寒は、J I S C 3 0 0 5の4.22による。

冷却温度は-10℃以下とする。

4.11 屈曲

屈曲は、完成品から適当な長さの試料をとり、18℃~28℃の室温でケーブル外径の20倍の外径を有するマンドレルに沿って180°曲げてこれを原位置にもどし、次に、反対方向に180°曲げこれを原位置にもどす。この操作を10回繰り返した後、解体して調べる。

4.12 内部導体と絶縁体の密着

内部導体と絶縁体の密着は、完成品から1m以下の試料をとり、その絶縁体を固定し、18℃~28℃の室温で内部導体を引張ることによって行う。

引張速度は100mm/minまたは200mm/minとする。測定値は1mに比例換算する。

5. 荷造り

T S - S - 5 C - F Bは、100mタバ巻とし、運搬中損傷のない様にダンボール箱に入れる。

6. 環境負荷物質

シース材は、カドミウム・鉛・六価クロム・水銀及びその化合物を含有していないものとする。

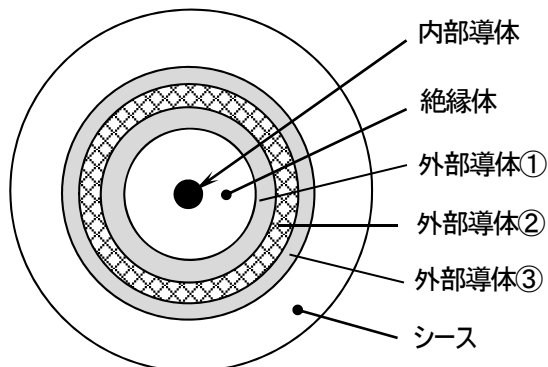
付表1 構造

項 目		規 格 値
内部導体	材 質	電気用軟銅線
	外 径 (mm)	1.05 ± 0.05
絶縁体	材 質	発泡ポリエチレン
	厚 さ (mm)	1.90
	外 径 約 (mm)	4.85
外部導体①	アルミ箔張付け プラスチックテープ (絶縁体に接着)	全体の厚さ 約 (mm) 0.05
外部導体②	すずめっき 軟銅線 編 組	素線径 (mm) 0.14
	持数 × 打数 (mm)	3 × 24
外部導体③	アルミ箔張付け プラスチックテープ (シースに接着)	全体の厚さ 約 (mm) 0.04
シース	材 質	塩化ビニル
	厚 さ (mm)	0.95
	標準外径 (mm)	7.7
	仕上り外径 (mm)	7.7±0.3
	色 相	アイボリー
概算質量 (kg/km)		62
標準長 (m)		100

(表面表示)

地上デジタル・BS/CSデジタル・CATV トリプルシールド TS-S-5C-FB FUJI EWC

断面図



付表2 特性

項 目		規 格 値	試 験 方 法
外 観		キズ、色ムラ等その他異常のないこと	5.1
構 造		付表1による	5.2
内部導体抵抗 (20℃)		21.1 Ω/km 以下	5.3
耐 電 圧		AC 1000Vに1分間耐えること	5.4
絶縁抵抗 (20℃)		1000 MΩ km 以上	5.5
特性インピーダンス		75±3Ω	5.6
標準減衰量 (20℃) ※	90 MHz	58.8 dB/km (最大: 67.6 dB/km 以下)	5.7
	220 MHz	95.0 dB/km (最大: 109 dB/km 以下)	
	470 MHz	145 dB/km (最大: 167 dB/km 以下)	
	770 MHz	192 dB/km (最大: 221 dB/km 以下)	
	1300 MHz	261 dB/km (最大: 300 dB/km 以下)	
	1550 MHz	291 dB/km (最大: 335 dB/km 以下)	
	1770 MHz	315 dB/km (最大: 362 dB/km 以下)	
	2000 MHz	340 dB/km (最大: 391 dB/km 以下)	
	2150 MHz	355 dB/km (最大: 408 dB/km 以下)	
	2602 MHz	400 dB/km (最大: 460 dB/km 以下)	
シースの引張	引張強さ	10MPa 以上	5.8
	伸 び	200% 以上	
シースの加熱	引張強さ	加熱前の値の80% 以上	5.9
	伸 び	加熱前の値の80% 以上	
シースの耐寒		試験片が破壊しないこと	5.10
屈 曲		シース及び外部導体上に、きれつ、破壊及びはなはだしい変形など異常のないこと	5.11
内部導体と絶縁体の密着		内部導体が、絶縁体から脱するまでの最大張力は100N/m以上であること	5.12

(備考) 標準減衰量の3224MHz は参考値とする。